

小豆島町

議会だより

No.12

平成21年5月1日 発行



統合式及び開校式（安田小学校）

● 審 議 議 案

平成21年度当初予算など 2

● 一 般 質 問

15名の議員が質問 3

● 住民の声・町の力 10

町議会議員定数を16名に

3月定例会を3月4日から3月25日までの22日間の会期で開き、第1日目は坂下町長から、平成21年度の施政方針をはじめ、各会計予算や新規条例、条例改正など34議案が提案されました。

第2日目は、条例改正など一部を可決し、各関係予算、新規条例などはそれぞれ常任委員会に付託しました。

第3日目は、一般質問を行いました。

第4日目(最終日)には、付託議案の採択や、追加議案として、平成20年度各会計補正予算など8件、議員発議による意見書など4件が提案され、議案はすべて原案どおり可決しました。

審議した主な議案

平成21年度予算・意見をつけて可決

【一般会計】
【企画財政課】
移住交流事業は、今後も継続・促進に努められたい。

【保険事業課】
新年度の予算12件は、総務、教育民生、建設経済の各常任委員会に付託して、延べ5日間にわたって審議しました。その結果、次のような意見をつけ、賛成多数で原案どおり可決しました。

【環境衛生課】
不燃ごみが有料化になるが、減量化の周知徹底をさ
れたい。

【商工観光課】
県より移管が予定されて
いる健康生きがい中核施設
については、創意工夫を行
い、なお一層の健全経営を
めざし努力されたい。

【農林水産課】
地域の特性を生かした継
続できる農業をめざして、
農業関連団体と共に、農業
者を支援する体制づくりを
進められたい。

【人権対策課】
人権教育をいろいろな場
において取り組みされたい。

【収納対策室】
未収金対策については、
成果は認められるが、視点
を変え、収納率を上げるよ
う努力されたい。

【国民健康保険診療所事業
特別会計】
診療所の検討について
は、地元とよく協議され
たい。

【病院事業会計】
1 島内の将来の二次救急
のあり方の検討をされ
たい。
2 眼科医の常勤に向けた
対策を図られたい。

教育委員会委員に 岡田恕枝氏を再任



岡田 恕枝 氏

岡田氏(池田)の任期が5月11日をもって満了となりますので、引き続き任命することに同意しました。岡田氏は平成18年5月11日の合併後の第1回臨時会で小豆島町教育委員会委員に選任され、今期で2期目となります。

固定資産評価審査 委員会委員を選任

現在の固定資産評価審査委員会委員の塩田洋司氏(馬木)及び藪脇修氏(安田)の任期が5月11日をもって満了となりますので、引き続き両氏を再任、また岡彰氏(室生)も同日をもって任期満了となりますので、後任に三木忠臣氏(中山)を選任することに満場一致で決定しました。



三木 忠臣 氏



藪脇 修 氏



塩田 洋司 氏

条例制定

○小豆島町選挙公報の発行に関する条例

選挙人に候補者選択に当たっての資料を提供し選挙に対する関心を高めるとともに、候補者に自身の意見を広く周知する機会を与えるため、町議会議員及び町長の選挙における選挙公報を発行します。

○小豆島町定住自立圏形成協定の議決に関する条例

高松市を中心として隣接する5町による「瀬戸・高松広域定住自立圏」が先行実施団体として国の指定を受け、平成21年度から中心市である高松市との定住自立圏形成協定案及び定住自立共生ビジョンの作成に着手するため、議会の議決すべき事件に定める条例を制定します。

条例の一部改正

○小豆島町手数料条例

平成21年10月1日より、ごみの減量化を図るため、燃やせないごみの指定袋制（有料化）を実施します。

○小豆島町介護保険条例

平成21年度からの保険料を、被保険者の急激な負担増への対応策を講じたうえで、見込まれる介護サービス使用量から推計し、必要とされる保険料額に改めま

○小豆島町水道事業の設置等に関する条例

町内6つの簡易水道の水源水質の悪化、施設の老朽化に対応するため、平成28年度までに全ての簡易水道を上水道に統合するため、水道事業の認可を変更したものです。

○小豆島町簡易水道事業の設置及び給水に関する条例

当浜簡易水道の使用料を、従来の定額料金制から使用量に応じた料金にします。

○小豆島町介護老人保健施設事業の設置等に関する条例

介護老人保健施設うちのみで、通所リハビリテーションの定員を20人から25人にします。

議員定数を変更します 議員発議

○小豆島町議会の議員の定数を定める条例

議員定数特別委員会で検討した結果、平成22年に実施の町議会議員選挙では、選挙区は廃止され、議員定数は18名から2名減の16名となります。

○地域安全に関する意見書

一、生活航路としての公共性に鑑み、全ての島嶼部航路が国庫補助対象となるよう基準を見直すこと。

二、高速道路料金的大幅引き下げと同じく、島嶼部航路にも国の支援制度を創設すること。

三、国道436号線における海上部分を、国道と同等扱いにすること。

一般質問

植松(安田)都市下水路改修後の性能と管理は



谷 清 議員

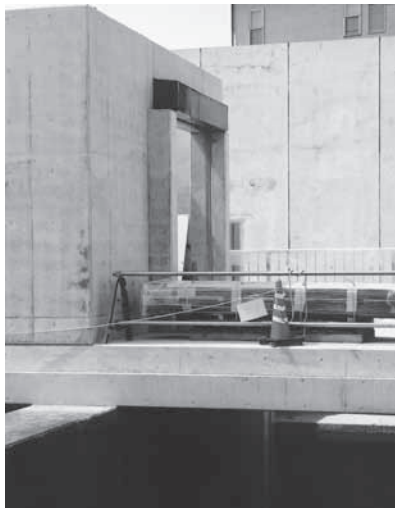
谷議員 現在行われている工事が完成した時点で、性能がよくなると吐出力が増し、高潮対策でパラベットの嵩上げをしたが、その上を通り越すのではと近隣の方々が心配している。

内海病院眼科 医師の今後は

谷議員 町長は所信表明の中で、休診となっていた眼科について、非常勤医師の確保に目途がたち、4月から3回の外来診療を開始する予定になっているといわれたが、せめて週3回位の体制はとれないのか。

近い将来には、常勤医師の確保はできるのか。

答弁 眼科の診察が月3回程度では十分でないと考えますが、今回眼科の診察をお願いする医師は、香川県出身者であり、将来は県内へ帰りたいとの意向をもっているというので、私も一度お会いして、常勤医師としての勤務をお願いしたいと考えています。



再整備中の植松ポンプ場

ポンプ場運転の際の総責任者は誰なのか。

答弁 平成16年に集水面積及び排水計画の見直しをし、片城、馬木のポンプ場と同規模の時間雨量65ミリ降雨

に対応するため口径900ミリ1基、口径450ミリ2基にする再整備を実施していますが、吐出力に変わりはありません。ポンプ場全ての管理責任者は建設課長です。

小豆島町の石の文化

石彫をメジャーに



井上喜代文 議員

井上議員 小豆島アートアイランド事業が、小豆島芸術家村事業として、県・土庄町・小豆島町の連携で実現し、新しい事業に力を注ぐことは誠に良いことです。一方で地元にある芸術品にも目を向けることも大切だと思う。

今、忘れがちになってきた石彫にもう一度目を向けて、小豆島の町中が美術館として、全国に情報発信をしています。



パラダイスゲート (オリブビーチ)

答弁 小豆島芸術家村事業は、昨年度より香川県と連携し、準備を進めてきました。この3月20日から2名の芸術家を迎えてスタートしています。

現段階では、3ヶ年の予定ですが、その後も「小豆島アートアイランド事業」において継続していきます。

石彫作品は、昭和43年から取り組み、石の本場の福田地区を中心に製作されたものです。平成22年開催予定の「瀬戸内国際芸術祭」を視野に入れ、地場産業の石材と芸術が融合した、ガイドマップの作製、地域おこしに向け、石に関するイベントを開催すべく検討しています。

芸術家村実施に向けて



森口 久士 議員

森口議員 芸術家の滞在は、当初の計画より期間が長く、秋にも予定があるようだが、内容は、今後、自治会への対応は。

答弁 3ヶ月程度と説明していたが、募集要項は、移動期間を考慮した関係で、期間が長くなりました。秋の予定は、「大変優秀



開村式 (元 三都幼稚園)

な人材で、何とか受け入れできないか」との意見もあり、計画の前倒しでお願いします。自治会、地元関係諸団体への相談、報告をより綿密にします。

学校統合に関して

森口議員 再編の必要性が高いのは小学校だ。統合小学校はいくつか開校するのか。

内海と池田中学校は平成25年度を目標に統合することだが、各学校の教育方針をどのように評価しているのか。

今後の小・中学校教育をどのように考えているのか。

答弁 小・中学校の再編は並行して進めていきます。

小学校は、合併特例債を考慮、平成28年度開校を目標、中学校統合は、平成25年度目標です。

委員会の方針を尊重、重点目標や学校経営方針も努力し、大きな成果を挙げていると評価しています。

適正な教育環境を考えて

いくことが重要です。よりよい教育環境を確保することが、子どもたちに

合併による財政支援や合併特例債を使った事業の一覧を



藤本 傳夫 議員

藤本議員 合併した小豆島町が国、県等からいくら財政支援を受けたか。また、合併特例債の利用状況は。

答弁 資料

財政支援措置 (平成20年度末見込み額)

項目	金額 単位: 千円
国の補助金	174,000
県の補助金	312,000
地方交付税によるもの	1,869,000
合併特例債発行予定額	995,000
合計額	3,350,000

平成21年度合併特例債事業 (主なもの)

事業名	事業費 単位: 千円
内海中学校建設事業	96,000
植松都市下水路整備事業	114,000
防災行政無線デジタル化事業	37,900
池田小学校耐震改修事業	100,000

「緑提灯」を島内の飲食店、宿泊施設に

藤本議員 地場、国産品を50%以上使っている店が「緑提灯」を掲げられる。オリブ他特色ある醤油、佃煮などの店や食料品、飲食店、宿泊施設で使われています。

最優先されるべきであり、教育委員会の務めです。

答弁 「緑提灯」は全国で1700店になっていきます。今後その活動実態や効果などを十分に見ながら、対応を検討していきます。

予備水源の有効活用を

藤本議員 新内海ダム事業が完成した場合、水源の余裕はどの程度できるのか。新ダムの恩恵は、小豆島町全域に及ぼすべきだ。
水道、農業予備水源の水も総合的な利用を考えては。

答弁 新ダムは水道用水として19万トン、日量1000トンを含め、池や不適格表流水から、安定水源に移行するものです。小豆島町水道事業基本計画では、旧町内で相互水融通の検討を行い、内海ダム再開発事業の恩恵を町全域で受けられます。昨年、各水利権者へお願いし、三五郎池より5万5000トン、猪谷池から3万トン、池田地区では湯舟の水を1月より日量500トン、新中山池の農業用水1万トンを水道用水に転用しました。総合的利用はダム

事業完了後に配水調整委員会を設置し、水の相互融通

里帰り出産による一時保育実施を



村上 久美 議員

村上議員 子どもを連れて郷里で安心して出産できる一時保育ができる体制を。

答弁 一時保育実施要綱に産前産後の14週程度でも、保育が困難であれば、受け入れ可能で相談のうえ適切に対応します。

についての審議ができると考えます。

農政推進体制の強化を

村上議員 地域農業の再生に農政に精通した人材やリーダーの育成・確保、農業委員の集落支援員など必要な予算と人員確保を求める。

答弁 「集落支援委員」の活動費は、県を通じて国に予算要望しています。
国・県の補助事業の活用、適材適所の人員配置と連携強化で、農業施策の的確な推進を図ります。

池田中学校の存続を

村上議員 平成25年度を目標に池田中学校が内海に統合すると新聞報道がありました。中学校統合は合併協議の合意事項になっていない。また、こどもセンター・

池田小中学校の15年間を見通した連携教育を推進する考えを教育長は認めている。
日本共産党アンケートでは池田住民の7割が池田中学校統廃合に反対しており、存続を求める。
答弁 19年度策定の集中改革プランなどで、学校施設

食品産業の支援と育成を



浜口 勇 議員

浜口議員 人間の身体維持に必要な食品産業の発展こそ、島の経済発展に寄与すると思う。

塩づくりからスタートした醤油づくりは40年以上の島の歴史的産業であり、将来にもなくならない食品産業をもう一度見直して支援、育成をすることにより、職場の創造になり、ひいては人口増にも寄与するのでは。

答弁 小豆島での醤油醸造は文化年間に始まり、明治

適正配置を見直すとしていきます。
池田中学校は、28年度には、3学級になる見込みで、現時点でも教員配置や、部活動に支障を生じています。15年間を見直し、地域の伝統などを生かした教育は町としてめざすものです。

習の時間」に、サミット実行委員会から醤油博士を派遣します。中学校、高校では、職場体験や調査研究で醤油文化の理解をお願いします。
サミットでは、著名人の講演会や醤油蔵フォトコンテストなどでPRに努めます。「醬の品格」をキャッチフレーズに様々なイベントで、40年の歴史を誇り「醬の郷」で育まれた「小豆島の醤油」を全国にアピールいたします。



特産品を目指す 鹿肉試作品

福田の公共施設でデイサービスを



鍋谷真由美 議員

鍋谷議員 福田小学校の閉校で空く、小学校などの公共施設を、地元の声を十分に聞いてデイサービス施設などに有効活用できないか。

答弁 地元自治会と、高齢者福祉施設も含めた検討をしていきます。



136年の歴史に感謝

同和行政を終結し、 真の人権尊重を

鍋谷議員 対象者を特定した個人給付事業の継続は間違いである。

憲法の基本的人権を矮小化する法的根拠のない不正な同和行政の終結を。

答弁 旧対象地域に残っている「教育」と「就労」の問題解決は必要です。

生活交通再生の 取り組みを

鍋谷議員 地域住民や自治体によるバス再生に成功した地域などに学び、住み続けられる地域づくりのために、地域公共交通システム整備の取り組みを。

答弁 国・県や土庄町との協議を通して、公共交通のあり方や今後の方向性などを検討していきます。

雇用対策の 取り組みを

鍋谷議員 町内の失業者や企業の実態・状況をつかんでいるのか。国の「緊急雇用創出事業」などを活用し、雇用対策、特に福祉、教育事業の拡充・創出を求める。

答弁 生産の落ち込みや受注の減少など、厳しい雇用情勢です。

「ふるさと雇用再生特別基金事業」は6事業、延べ20人、「緊急雇用創出事業」は、7事業延べ22人の新規雇用事業計画で、教育分野では「学校生活支援事業」を計画しています。

高潮対策と激甚法



森 崇 議員

森議員 私達は渇水や49・51災害など集中豪雨の経験을忘れてはいけません。

高潮対策は、雨漏り対策と同じにするべきで「一部だけ、大きな穴だけ」修理するわけにはいきません。

平成16年は、昭和20年以来初めての「高潮」だったが、法律が実態についていていない。激甚法のようになって個人の岸壁といえども、全て同じ扱いにするべきだ。

答弁 補正予算などで馬木の水門や草壁港のゲート

ポンプなど県と連絡を取りあっています。国の二次補正や景気対策に期待していますが、復旧対策と防災対策との違いはあります。しかし、個人の問題だと放置せず助言などの協力をして高潮対策の促進に努めます。

各課の 協力体制こそ大切

森議員 最近、財政難が強調されているが、まず町職員目らがごみの問題、家庭での買い物の仕方まで本気になって姿勢を町民に見せることだ。

各課とも「それどころじゃない」で終わるとボランティアする人も少なく、あらゆる問題は広がりを見せず、



草壁本町の水門
ゲートポンプがつけられる

かけ声で終ると思う。

答弁 町役場の仕事は突き詰めると「町民の幸せづく」です。職員全員が共通

今後の小豆島町の将来像は



中江 正 議員

中江議員 オリーブ100周年は大きな成果を得ましたが、これらの成果を一過性のものとして終わらせることなく新たな事業展開により、切れ目のない情報発信などの計画は。

答弁 官民協働による「全国醤油サミット」の開催やふるさと応援団「クラブオリーブ」の会員拡大など全国に向けた情報発信をします。

「オリーブ検定」、「園地とオイルの品評会」を継続実施し、「てくてくさぬき」や「醬の郷景観整備モデル事業」を支援します。

認識を持っていますが「課の枠」にこだわらず横断的に取り組んでいることはご承知のとおりです。さらに指導を強めていきます。

財政運営の 行き先は



オリーブナビ小豆島

中江議員 町は財政の健全化を推進するため、合併効果を生かした事務の効率化、総人件費の抑制は町職員、病院、医療そして福祉の見直しになるのではない

答弁 中期財政計画で想定される各種事業も合併支援措置のおかげで実施可能となっています。今後、地方交付税や町税の落ち込みが予想され、ここ1、2年の内に徹底した行財政計画が

瀬戸内国際芸術祭に 向けた取り組みについて



安井 信之 議員

安井議員 2010年瀬戸内国際芸術祭に、小豆島町はどのような形で関わっているのか。

今、「地域おこし」の団体が町広報などに会員募集・活動協力など、広く公募することができないか。

答弁 平成22年7月19日より105日間にわたり開催され、町でアーティストが滞在するのは中山地区だけで、宿泊できることを活用し、夜のイベントを予定したいとのことでした。

地元の参加、交流が重要

必要と認識しています。基本的には医療介護、福祉、教育部門などの行政サービスの維持のためにも、経費の節減に努め健全な財政運営を図ります。

になりますし、多くの町民が参加できるようにと考えています。次に公募の件ですが、記事掲載の内規要件を満たしていること、記載スペースに余裕のあることが条件になります。



中山農村歌舞伎

学校再編計画の 実行について

安井議員 小豆島町学校再編整備検討委員会の答申が出された。町民に対して周知することが、第一歩だと考えるが。

答弁 教育委員会において、5月末を目途に基本方針及び実施計画を策定し、

幼保・小・中の統合について、 どのように考えているのか



新名 教男 議員

新名議員 平成21年2月27日、小豆島町内の幼・小・中の統廃合について「町学校再編整備検討委員会」より答申があったと報道されている。

- (1)内海中と池田中の統合
- (2)安田小・苗羽小・星城小の統合
- (3)安田幼・苗羽幼・星城幼の統合

完了後議会と自治連合協議会で説明したいと考えています。

また、周知の件ですが、町広報やホームページなどにより、生徒数、施設の利用状況、基本方針や実施計画を掲載し、町民にお知らせします。

その後協議会を設置し、検討をお願いしたうえで、保護者や住民への説明になります。

この3点の答申を基に、町教育委員会は5月末を目途に基本方針を策定し、その後住民や議会・学校などで協議会を設置し、協議するらしいが、町としてはどのような方向に進もうと考えているのか。

答弁 子どもの数が次第に減少していく現状を踏まえ、学校の環境や老朽化、耐震化にどう取り組めばいいのか検討し、地域の皆さんや保護者、学校関係者の代表の方々に熱心に検討いただいた結果ですので重く受けとめています。

陸上交通の取り組みは



渡辺 慧 議員

ろもあるが、今後の対応は。

答弁 「デマンド型交通システム」は、タクシーとバスの中間ともいわれ、設定された区域内であれば、ワゴン車などの小型車両を使用することにより、自宅から目的地まで運ぶことも可能ですが、採算性や継続性などで課題もあります。

今後、他の地域の事例に注目しながら、さらに調査・研究を進め、地域に



学校教育の将来を考えよう

中学校部会、小学校部会、幼・保部会の三部会に分かれ、小学校部会では統合校舎の建設位置の選定を協議したり、幼・保部会では、こどもセンターへの視察を行い、答申案の取りまとめをいただきました。いずれも避けられないものですが、決定ではないと考えています。

った運行形態について検討
していきます。



住民の足を守る路線バス

年を目標に統合し、小学校
は3校を統合、新たに校舎
を建設、場所は平成24年度
を目途に決定すべきとの答
申が出された。
今後の対応と小学校の建
設場所など具体的に検討さ
れたか。

答弁 今後、全町的な協議
会を立ち上げ、その下に小
委員会などを設置し、取り
組んでいくことになると思
います。

統合小学校建設について
は、検討委員会で検討され
ましたが、一定規模の敷地
が必要で、答申では建設位
置までは示されていません。

学校再編整備は

渡辺議員 中学校は平成25

スポーツの力・あいさつ運動



新茶 善昭 議員

新茶議員 生涯教育の積み
重ねとして、子どもたちに
挨拶の大切さを教えては。

答弁 コミュニケーション
の基本であり、「安心・安
全なまちづくり」からも、
非常に大切なことであり、
家庭や学校、地域での「あ
いさつ運動」を推進してい
く必要があります。学校教
育や社会教育の分野も、「地
域の教育力」の向上をめざ
します。

ごみの減量化・ 資源化について

新茶議員 モデル地区を定
め、循環型社会をめざすと
は。

天ぷら油の回収状況は。
コンポストをもっと奨励
しては。

答弁 21・22年度に複数の
モデル地区を指定、ごみの
排出量調査を行い、結果を
減量化の施策に反映します。
てんぷら油の回収は小豆
島クリーンサービスが、平
成19年町内の32事業所と3
自治会、町外の6事業所か
ら、平成19年9ヶ月で36ト
ン、平成20年は8トンほど



萩原智子さんの生涯学習講演会

回収。町広報、チラシで町
内へ周知を図っています。
コンポストで堆肥化して
いる人には、ある程度いき
わたったと思います。今年
も生ごみ処理機の補助と同
様、活用ください。

公共交通の充実には 土庄町と一体となれ



植松勝太郎 議員

植松議員 原油の大幅値上
がり、フェリー会社は、
値上げや減便が相次いだ。
土庄町と一体になり、国
や県に陳情しないと成果は
得られないのでは。高速道
路の大幅値下げにより、島
に観光客が来ないのでは。

答弁 本町と土庄町で情報
を共有し、海上交通、路線

醤油サミットについて

新茶議員 醤油サミットの
取り組みは。

答弁 サミットを契機と
し、伝統産業に理解を深め
る機会の創出に努め、全国
に情報を発信していく好機
とします。



島民の足 フェリー

バスについても同じ立場で
一致協力して対処します。

定住自立圏が国の 指定を受けたが

植松議員 瀬戸・高松広域
定住自立圏がスタート。
土庄町長の合併後退論に
なったのでは。

道州制と共に今後の動き
を考える必要があるのでは。

答弁 今回の定住自立圏構
想の今後の成果や道州制の
議論について十分に分析、
研究する必要性を感じます。
土庄町長が合併論議から
後退したのは、この構想が
出る前であつたと思います。

未婚男女の出会い 事業が先決では

植松議員 町内にも多くの
未婚男女がいる。出会いの
事業こそ次世代育成支援の
中心に置くべき。将来の活
力の源であると考えが。

答弁 未婚男女の出会い事
業について重要であること
は認識していますが、計画
の中心に据えることは難し
いものと考えています。

バイオマスタウンの 早期実現へ

植松議員 家庭からの生ごみ、食品産業の廃棄物、し尿や汚泥など再資源化し、有価物に変わるバイオマス

タウン実現へ鋭意取り組んでいただきたい。

答弁 この構想について、地域の関係者がなぜそれに取り組むのかという認識をきちんと持つことも重要で

農業振興・荒地対策



秋長 正幸 議員

す。
オリーブ栽培面積は順調に増加、最盛期の半分以上(約70ha)に回復しています。「収獲応援隊」をシルバー人材センターへ依頼したいと考えています。

秋長議員 合併後3年経過、合併協定項目では当分の間は、旧池田庁舎を仮事務所にする。昨年、議会に特別委員会を設置し議論している。
分庁舎方式から本庁舎方式への転換は決定した。位置についてどのように考えているのか。
答弁 これまで同様、島は一つという理念は持ち続けたいと思います。
島の特殊性から、均衡ある発展を図っていく必要があり、その点からも旧3町の真ん中である池田地区に置くことが適当と考えています。

本庁舎の位置は

教育民生常任委員会

平成21年2月10日、委員会を開催し、副町長、担当課職員の出席を求め説明を受けた後、各委員より質疑、意見を求めました。

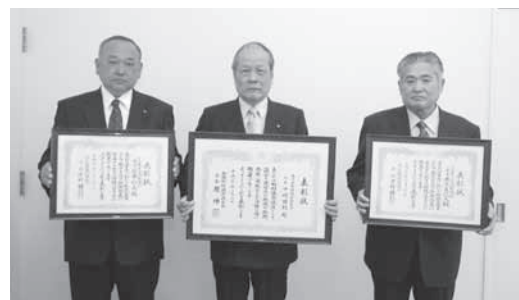
○介護保険事業計画の改正について

委員会活動報告

主な意見

- ① 第4期保険事業計画では、特養の増床が計画されているが、他の保健福祉圏域に比べ待機者が多い。第5期で実情にあった計画をされたい。
- ② 第4期保険事業計画の実施に伴い、保険料が改定になる。広報等周知・相談に努められたい。
- ③ 100歳体操の普及など、なお一層介護予防に努められたい。

自治功労表彰



2月6日、全国町村議会議長会定期総会において、本町から中村勝利議長が、特別表彰を受賞されました。

また、2月23日、香川県町村議会議長会定期総会において、井上喜代文議員、安井信之議員の2名が議会議員10年以上の自治功労表彰を受賞されました。

答弁 今年から、荒地対策へは、耕作放棄地解消対策協議会を組織し、オリーブ推進事業と連携、担い手育成を最重要課題としていま

移住・定住者及び新規就農者へ支援する具体的な施策、オリーブ振興へ新たな取り組みは。

秋長議員 高齢化・後継者不足により、農業が衰退している。オリーブ振興によって荒地の解消が図られているが、認定農業者などへ集積する具体的メリットがない。



開拓前



開拓後



100歳体操のスナッフ (イマージュセンター)

住民の声

「神浦の宝」

平井保夫（神浦自治会長）



神浦峠を下れば右に神浦富士が高くそびえ、見下ろせば

澄み切った静かな海に突き出し、眺めの良い権現山が神浦のシンボルです。

また、昭和62年12月に池田町の無形民俗文化財に指定された神浦自慢の押し込みです。

人口は男84名、女100名うち子ども13名の少子高齢化の進んだ地域です。権現山はウバメガシの群生地として、昭和3年1月31日に国の天然記念物に指定され、面積は約4000坪です。南部の一部を除けば全山ウバメガシに覆われ、その間にイブキネズミモチ、黒松等が自生している西向き海岸に回れば断崖で花崗岩、玄武岩で地質的にも重要な資料とのこと。山腹には皇子権現様が祀られ、願い事の良ききく神社です。毎月住民が掃除に勤めている石段が126段もあり、お参りが大変とのこと

で手摺を取り付け、少しでも

町の力

「池田少女バレーボールクラブ」

私たちは、池田小学校の2年生から6年生までの

の団員(女子)で構成するスポーツ少年団です。現在21名の団員が所属し、この春よりまた新しい仲間が増える予定です。団員数は香川県下でも多い方で、樋口祥監督を中心とする5名の指導者の下、週に3〜4回(低学年は1〜2回)池田小学校の体育館で練習をして



います。

熱心な指導と子供達のがんばりが見事に実り、昨年9月に行われました『第31回香川県小学生バレーボール選抜大会』において準優勝という成績を残すことができ、大会規定により、この3月に埼玉県(熊谷市他)で行われました「第6回全国スポーツ少年団交流大会」に香川県代表として出場することができました。

全国の47代表と開会式より閉会式までの3泊4日をともに過ごし、交流の和をひろげるとともに、予選リーグ計4試合(石川県、青森県、福岡県、神奈川県)を戦いました。結果は全敗でしたが、13名の6年生、指導者陣としてそれを支えてきた保護者が全員一丸となって、小学生最後の大会で全力を出しきることができたと思っております。特にベスト4に進出した神奈川県代表の身長17センチ

のエースのスパイクをブロックしたり、レシーブする姿は全国トップレベルとの力比べをしているようで、たくましく見えました。本当によい経験させてもらったと思っています。

今後、またこの小豆島町より全国大会に出場できるチームが出てくることを心より願っております。

『自分を信じ、仲間を信じ、勝利を信じる!』今日も池小体育館から子供達の元気な声がこだましていることでしょう。

広報編集特別委員会

委員長 秋長 正幸
副委員長 谷 清
委員 藤本 傳夫
森口 久士

森 崇
渡辺 慧
鍋谷真由美

■よりよい議会だよりを作りたいと心がけています。ご意見、ご感想をお寄せください。

編集後記

小豆島町が取り組む課題はとても多い。公共交通問題をはじめ、香川県の中で少子高齢化が一番進んでいるが、町はオリーブ百年祭などで頑張っている。

議員として視察に参加したり、勉強や調査をしなくてはついていけない。「自分のことを放置してでも、ことに当たってきた先人諸氏に学び、さらにみんなの協力がなければこの小豆島は救えない」とも思う。

また三月議会では、学校統合問題が急浮上して15名の質問議員の中、5名の議員が学校統合問題を質問。ずいぶん驚いた。検討委員会では質問や意見を発言した議員はじめ委員の方と「学校は自分の地域」にと考えている地元の人々の認識のずれはどうしたものか考える。庁舎の位置を含め、総じて民主主義の問題であり、地域住民の多くの意見・質問は今からと理解している。

森 崇記